

Bauhaus

ーバウハウスー

第1回グループ研究事前資料

発表班：駒口、畑尾、竹田、木村、小川

0. はじめに

今回私たちの班ではバウハウスを扱う第一週目の班として、プレレジュメでは、みなさん全員に共有してもらいたい知識をおおまかにではありますがここに羅列したいと考えました。そこで、第一章ではバウハウス発足から発展、ナチス台頭による衰退までを表した簡単な年表と補足説明を、第二章ではバウハウスが掲げた理念の概略とその理念を現実のものにするために施した教育制度の概略を載せます。発表ではその知識をベースに、さらにバウハウスの現代における功績に関して一步踏み込んだ展開を考えていますが、そのためにもお配りした文献と、このプレレジュメに書いてあることをよく参照した上でゼミに臨んでいただきたいと思います。

1. バウハウス年表+α

年代	政治・経済関連	バウハウス関連
1870		ベルリン→建設ラッシュ。（その様式は依然としてシンケル流の、バロック彷彿とさせる歴史主義、形式主義が支配的）
190		「モデルネ」の出現（帝国創設期における「歴史主義」や「男性中心主義」などに代わって、むしろ純粋な感覚、根源主義、宗教の代替物としての普遍主義、インターナショナリズムを対置しようとした芸術運動。） その後アール・ヌーヴォーへ展開。（主要人物：ヴァン・デ・ヴェルテ＝バウハウスの前身、ヴァイマル工芸学校の校長）
1908		ドイツ工作同盟（目的：芸術と生活の統一、後に「民族」派と「民衆派」に分かれる）結成。
1914	第一次世界大戦開戦	第1回「ドイツ工作連盟ケルン展」 連盟展の後、製品の規格化を重視するムテジウスに対して芸術性を主張するヴァン・デ・ヴェルデらが反発し、規格化論争が起こる。
1915		ヴァン・デ・ヴェルテが自分の後任をグロピウスに打診（アール・ヌーヴォーとバウハウスを繋げる象徴的事件）

1918	<p>ドイツ帝国の敗戦</p> <p>ドイツ革命</p>	<p>芸術革命運動、「芸術労働評議会」（中心人物：タウト、グロピウス）結成</p> <p>ベルリンでダダ運動が起こる</p>
1919	<p>ベルリンにて、ドイツ共産党が結成される。</p> <p>ドイツ南部のミュンヘンにて、ドイツ労働者党（ナチスの前身）が結成される。</p> <p>ドイツがヴェルサイユ条約に調印する。</p> <p>ワイマール共和国誕生、ワイマール憲法発布。</p>	<p>バウハウス宣言</p> <p>グロピウスが、バウハウスの初代学長に就任する</p> <p>イッテンがバウハウスの教授に就任</p>
1920		<p>パウル＝クレーとオスカー＝シュレンマーが教授に就任</p> <p>ピュリズム、新造形主義、構成主義など周辺諸国における新しい芸術運動の台頭</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
1922		<p>バウハウスの「展開」過程に大きく影響</p> <p>ワシリー＝カンディンスキーが教授に就任</p>
1923	<p>同年連合国側→賠償をドイツに要求。</p> <p>ドイツ→マルク紙幣が大暴落。</p> <p>ヒトラー・ルーデンドルフ、ミュンヘン暴動を起こす</p>	<p>ラスロー＝モホリ＝ナジが教授に就任</p> <p>バウハウス展覧会（スローガン：「芸術と技術 - 新しい統一」）</p> <p>（以来ヴァイマルのバウハウスは閉鎖、デッサウに移転、「市立バウハウス・デッサウ」となる、バウハウスと工業・産業との関係は強調され、「規格化」、「標準化」、「合理化」が試みられていく）</p>

1925		ハンネス＝マイヤーが教授に就任
1927		ハンネス＝マイヤーが校長に就任
1928		
1929	アメリカで世界恐慌始まる。(これにより、ドイツ経済はアメリカ資本の支持を失い大恐慌へ突入。ドイツ支配勢力は、ワイマール体制によってドイツに始まった民主政治を廃止するよう要求。)	
1930		ミース＝ファンデル＝ローエが校長に就任
1932		デッサウ校閉鎖、ベルリンへ移転（私立学校）
1933	ヒンデンブルク大統領よりヒトラーが首相に任命される。 国会議事堂炎上し、共産党壊滅。 3月の選挙でナチスが最大党に。ヒトラーは「全権委任法」によって独裁権力を得る。	ナチスによりバウハウス閉校
1934	ドイツ国際連盟脱退。 国民投票でヒトラー総統（Führer）兼首相になる。	

2. バウハウスの理念と教育制度概略

【バウハウスの理念】

※創始者ヴァルター・グロピウスが提唱

—「すべての造形活動の最終目標は建築である」—

・近代において絵画・彫刻・建築がそれぞれ「純粋性」を求めて宗教や慣習から離れた次元で展開するようになり専門分化したが、そのために相互の意味関連や依存を失い孤立したことによる衰退も招いている。

・19世紀における生産技術の進歩は建築及び他の手工芸のあり方に変化を及ぼし、そのために工芸や建築はその地位を貶められてしまっている。



「建築」のもとに全ての造形活動を総合し、絵画・彫刻・建築が一体化した統一芸術を創造する。そのためには造形の基本である手工作、手工芸に立ち戻らなければならない。



その後「諸芸術の統合」という軸は残しつつも、「ロシア構成主義」や「合理主義」、「機能主義」に影響されて、「形成（インダストリアルデザイン、工業デザイン）」が「手工芸の復活」よりも重要視していく。

【バウハウスの教育制度】

<教育課程>

レーリング（徒弟）→生徒

ゲゼレ（職人）→助手？

※ユング・マイスター（若親方）→准教授

※マイスター（親方）→教授



<教育段階>

①基礎教育(Grundlehre) 期間：6ヶ月（2学期）

→基礎教育のための特別工房における実習による基礎形態の授業。

→すべての生徒（レーリング）は工芸教育、形態教育（絵画）、補足教科教育（科学・理論）を履修しなければならない。

②専門教育(Hauptlehre) 期間：3年（6学期）

→ゲゼレ（職人）として一つの工房での工芸教育と補足的形態教育を受ける。（建築のための準備教育を含む）

→内容に関しては前ページの図を参照。

③建築教育(Baulehre) 期間：9ヶ月（3学期）

→才能ある者のための独立した建築活動への準備。可能なかぎりにおいて、実際の建築計画と関連した設計事務所での教育。

内容：建築構造（鉄、コンクリート）、建築静力学、モデル設計および補足的技術的専門科目。

<特徴>

- ・すべてのレーリングとゲゼレは同時に二人のマイスターから学び、そのマイスターは、手工教育担当と形態教育担当とに分かれている。
- ・基礎教育を終えた生徒は自由にマイスターと工房を選択でき、許可があれば他のマイスターから技術・芸術上のアドバイスをもらうことができる。
- ・マイスター（親方）、ゲゼレ（職人）、レーリング（徒弟）という徒弟制度的な区別はあっても、従来の「教師－学生」という学校的な関係ではなく、双方の距離が近い環境で教育を行っていた。

4. 発表に向けて

今回の発表では、第二週目／第三週目のみなさんの発表の布石となることも意図しており、そのために現代におけるバウハウスの成果や功績というものを複数の視点から展開していくことをご了承ください。